

## Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2022	開講キャンパス	都城	開設学科	園芸学専攻			
科目名称[英語名称]	果樹園芸学特別演習Ⅱ〔Special seminar in Pomology Ⅱ〕				授業形態	演習		
科目コード	611400	単位数	2	配当学年	2	実務経験教員担当	アクティブ ラーニング	○
教員氏名	前田隆昭							
授業概要	本演習では、果樹園芸学特論Ⅰ・Ⅱおよび果樹園芸学特別演習Ⅰなどで習得したことをもとに、受講生自らが修士論文課題についての目的・研究方法・進捗状況について論理的に発表し、受講生同志がお互いの理解を深めていく【知識・理解の育成】。							
関連する科目	果樹園芸学特論Ⅰ・Ⅱ、果樹園芸特別演習Ⅰを受講しておくことが望ましい。							
授業の進め方と方法	受講生が、修士論文をまとめる上で引用する文献などの内容を発表する。その際は、随時、ディスカッション等により学びを深めていく。本授業はディスカッション、プレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニング形式で実施する【専門分野の知識・技能の育成】【コミュニケーション能力の育成】。							
授業計画	第1回 ガイダンス(スケジュール、評価、概要説明) 授業の概要および進め方について説明する。							
	第2回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議1 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。							
	第3回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議2 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。							
	第4回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議3 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。							
	第5回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議4 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。							
	第6回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議5 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。							
	第7回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議6 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。							
	第8回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議7 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。							
	第9回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議8 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。							
	第10回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議9 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。							
	第11回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議10 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。							
	第12回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議11 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。							
	第13回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議12 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。							
	第14回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議13 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。							
	第15回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議14 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。							

学位授与の方針(DP)との 関連	1. 専門分野に関する知識・技能と教養	○
	2. 人間力、社会力、国際性の涵養	
授業の到達目標	果樹栽培に関する研究について理解するとともに、関連する研究手法について精通することを目標とする【専門分野の知識・理解の育成】。	
授業時間外の学修	次回、講義で使用する文献を配布するので、事前に予習するとともに、講義後もきちんと復習しておくこと(約1時間)	
課題に対するフィードバック	毎回、発表についての指導を行う。	
評価方法・基準	受講態度(50%)、課題提出(50%)	
テキスト	特になし	
参考書	随時、文献を配布する。	
備考		